

事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和 6年 3月30日

事業所名 UOOH！療育ラボ中野野方スタジオ

チェック項目		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7			1時間あたり最大4名までの利用にしております。	基本的には1時間辺り3名の利用枠に設定しておりますが、現在ご予約希望を多数いただいております。3名の枠で入りきらない時間帯もある状況です。1時間あたり3名枠で活動できるよう、新規事業所の開設も含めて準備を進めてまいります。
	② 職員の配置数は適切である	7			1日最低4名、最大7名のスタッフを配置しております。全スタッフ有資格者となっており、資格に関しては、保育士1名、幼稚園教諭2名、児童指導員3名、社会福祉主事1名、理学療法士2名、公認心理士2名の配置となっております。	引き続き余裕のあるスタッフの人数を配置してまいります。継続して全体での研修を行い、多職種連携をより深めてまいります。
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7			プログラム中は視覚からの情報をシンプルにし、他の刺激により注意が逸れないように物の配置を考えております。	引き続き情報処理をスムーズにできるように構造化を追求してまいります。活動スペースが2階にあり、エレベーターがない建物なので、車いすが必要なお子さまの通所の希望があった際には、スタッフが対応できるように体制を整えてまいります。
業務改善	④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7			毎日、全ての療育が終了したあと、ミーティングを行い、子どもの様子・変化・保護者の方のコメント等をスタッフ間で検討、共有、連携、記録を行い次回の療育に反映しております。	事務処理業務をよりスムーズに実施できるように体系の整備を実行していきます。
	⑤ 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7			毎年実施を行い、保護者様のご意向を頂戴し、業務改善に向けて1つ1つ取り組みを行っております。	引き続きご意見をお伺いし、よりよいサービスを提供できるよう努めてまいります。
	⑥ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7			毎年実施を行い、結果を集計の上、職員全体で共有を行っております。その上で評価内容や改善内容はHP上にアップロードさせて頂いております。	引き続き年毎に結果を集計し、評価及び改善内容をHPへアップロードして皆様へ公開していきます。
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7			第三者評価を実施し、評価結果を職員全体で共有しております。	定期的に第三者評価を実施し、よりよい事業所づくりを努めてまいります。
	⑧ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7			事業所で行う療育研修、OJT研修、チームワークを高める研修を実施しております。中野区の研修等、外部研修にも都度参加しております。	隔週日曜日の療育後にプログラム研修、療育連携研修、スタッフの表現力を高める研修を行っております。今後もより研修内容の充実を図ってまいります。
	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7			モニタリングとアセスメントツールを使用し、保護者のご要望を取り入れながら放課後等デイサービス計画を作成しております。	引き続きアセスメント、モニタリングを行い、保護者のご要望を取り入れ、子どもニーズに沿った児童放課後等デイサービス計画の作成に努めてまいります。
	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7			アセスメントツールは、4回まで記録しておくことができ、一定期間で評価を行うことができる標準化された様式を用いています。成長のステップや速度、苦手な事や得意な事が、具体的に視覚的に把握できるようにしております。	引き続き標準化されたアセスメントツールを用いてアセスメントを行ってまいります。
	⑪ 活動プログラムの立案をチームで行っている	7			研修、ミーティングを通じて、児童発達支援管理責任者、保育士、児童指導員、理学療法士、公認心理士の多職種連携のもとプログラムの作成を行っております。	引き続き研修、ミーティングを行い、よりチームワークを高め、プログラム作成に反映させてまいります。
適切な支援の提供	⑫ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			子どもが毎回楽しく運動プログラムに取り組めるように、興味の創り方や注意の引き方、プログラムの展開を療育毎に変えております。鉄棒、縄跳び等の運動技能習得にしましては毎回継続しなければならないので固定化して実施しております。	引き続きプログラム展開の研修を実施し、子どもの興味から運動プログラムに展開する力をより一層高めてまいります。
	⑬ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7			子どもの様子変化に応じて対応を変えています。	引き続き子どもの様子変化に応じて課題を設定し、支援してまいります。

	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	7			平日の完全マンツーマンによる個別運動療育プログラムと、隔週土曜日午前、毎週日曜日に小集団屋外フィールドプログラムを実施しています。小集団も一人のお子様一人の担当指導員がついております。上記のプログラムにて、アセスメント、モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画へ反映しております。	引き続きマンツーマン個別運動療育と屋外小集団療育を実施してまいります。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	7			お子様の担当の割り振りを行い、お子様の課題、保護者の方の要望、本人の興味、前回の様子を引き継ぎ、共有しております。	引き続き療育開始前、終了後の話し合いを行い、シームレスな療育を実施していきます。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7			毎日支援終了後、お子様毎に、実施内容、様子、変化、保護者コメントと要望を共有し、次回展開について話し合っています。	引き続き療育終了後にお子様の様子、変化、保護者の方のご要望を共有し、次回の療育に繋げてまいります。より質の高いミーティングが行えるように、努めてまいります。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			毎回の支援内容や子どもの様子を主観、客観、アセスメント、保護者の方のご要望の項目に分けて、記録しています。	引き続き子どもの様子を主観、客観、アセスメントに分けた項目を日報に、保護者の方のご要望、お子様変化を業務日誌に記載してまいります。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7			4か月ごとにモニタリングを実施し、支援計画の見直しの必要性を含めて判断しております。	引き続き定期的なモニタリングを実施してまいります。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	7			運動療育を中心に近隣の公園での屋外小集団を実施し、地域での活動を行っている。	引き続き
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7			児童発達管理責任者が参加しております。	引き続き児童発達支援管理責任者が参加してまいります。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	7			保護者の方や学校の担任の先生からご要望のあった際には行事予定の共有を受け、行事に沿った支援を行っております。支援内容の共有をする中で情報の共有を図っています。送迎に関しては行っておりません。	引き続き行事に沿った支援を行っていき、支援内容の共有をする中で情報の共有を図っています。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	-	-	-	放課後等デイサービスのお子様で医療的ケアが必要なお子様のご利用は現在ありません。	医療的ケアが必要なお子様のご利用があった場合には主治医等との連携を図ってまいります。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7			就学支援シート等を作成し、情報の共有を図っている。	引き続き、就学支援シート等を通じて保育園、幼稚園等の情報共有を図ってまいります。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	-	-	-	放課後ディサービスを卒業する児童はいない状況です。	該当する児童がいる際は、就労支援事業所との連携を視野に入れ、それまでの支援内容等を共できる体勢を整えてまいります。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	-	-	-	相談支援事業所との定期的なモニタリングにて、お子様の情報共有を行っています。	引き続き相談支援事業所との定期的なモニタリングを実施してまいります。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	-	-	-	完全マンツーマン運動療育のため実施していない状況です。	「マンツーマン運動療育の点」、「保護者の方のお考え」を鑑み、必要に応じて検討してまいります。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	-	-	-	協議会への参加しておりません。中野区の事業者連絡会に参加しております。	引き続き中野区の事業所連絡会に参加してまいります。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			毎回の療育後にフィードバックを行い、療育実施内容、様子、変化、保護者の方の要望について話し合いができるようにしております。	よりフィードバックの内容の質の向上を図ってまいります。また公認心理士のカウンセリングに關しましてもより質を高く実施できるように追求してまいります。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	-	-	-	現在、ペアレントトレーニングは実施しておりませんが、毎回の療育の後にフィードバックにてご家庭でのお子様の様子や療育についてのご助言を行っております。	ご要望に応じて、保護者の方も参加する個別療育によるペアレントトレーニングの実施を検討してまいります。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			契約書、重要事項説明書に記載し、契約時にご説明をさせていただいております。	引き続き契約時に契約書、重要事項説明書に記載した運営規定、利用者負担に関して丁寧な説明を努めてまいります。

保護者への説明責任等	⑳	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		毎回の療育後にフィードバックを行い、療育実施内容、様子、変化、保護者の方のご要望について話し合いができるようにしております。また公認心理士のカウンセリングも実施しております。	引き続きフィードバックによるご助言、公認心理士によるカウンセリングを実施してまいります。
	㉑	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	-	-	完全マンツーマン療育ですので、現在実施しておりません。	今後、保護者の方のご要望に応じて、当事業所にあった形での実施を検討してまいります。
	㉒	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7		苦情相談解決窓口を設置し解決責任者、受付担当者を配置しております。	苦情解決担当者、解決責任者の名前を重要事項説明書に記載し、速やかに保護者からの苦情、相談を解決できるよう体勢を整えております。
	㉓	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	-	-	会報等は作成していない状況です。活動内容に関しましては通所時に保護者の方もきていただき、療育の内容、様子を直接ご覧いただいております。	会報等は作成していない状況なので、今後の情報発信のあり方を検討してまいります。
	㉔	個人情報に十分注意している	7		個人情報取り扱い研修を毎年年に2回行い、情報の取り扱いにおける留意点を共有しております。	引き続き年2回、個人情報研修を実施し、取り扱いに十分注意してまいります。
	㉕	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		完全個別療育と、療育後のフィードバックにて意思疎通と情報伝達を図っております。	引き続き、より精度高い療育とフィードバックを行うように精進してまいります。
	㉖	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	-	-	個別療育を中心にしていますので実施しておりません。	「マンツーマン運動療育の点」、「保護者の方のお考え」を鑑み、必要に応じて検討してまいります。
非常時等の対応	㉗	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7		緊急時対応、防犯に関しましてはマニュアルを作成、感染症に関しましてはbcpを策定し、研修を行い職員全体で共有しております。待合室へのマニュアルの配置等も行っております。	引き続き感染症対策研修、防犯研修、bcp研修を行い、非常時においてもスムーズに対応できるようにしてまいります。
	㉘	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		年に2回、2週間の期間で実施しております。	現在年2回、2週間の期間で避難訓練を実施していますが、該当期間に個別療育の予約に入っていない方には避難訓練の実施できていない方がおります。今年度より、訓練期間を広げる等して、実施できるように工夫してまいります。
	㉙	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		虐待防止委員会をつくり、虐待防止研修、身体拘束研修を行っています。	虐待防止委員会をつくり、虐待防止研修、身体拘束研修を行っています。
	㉚	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7		身体拘束委員会をつくり、組織的な対応体制をつくっております。身体拘束を必要とする児童は在籍しておりませんので、支援計画に記載するケースはありません。	引き続き身体拘束委員会を中心に研修を実施してまいります。引き続き当事業所では身体拘束は行わない方針を徹底してまいります。
	㉛	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	-	-	マンツーマン運動療育ですのでおやつや食事を提供する場面はありません。	マンツーマン運動療育ですので、今後もおやつと食事の提供をする予定はございません。
	㉜	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		毎日療育後のミーティングにて、ヒヤリハットがあった場合の共有を行い、ヒヤリハット事例集、報告書を作成しております。	引き続き療育後のヒヤリハットの共有、対策の検討を徹底して行い、安心で安全な療育を実施してまいります。

この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。